「横溝正史生誕の地」の碑　東川崎町４丁目

日本を代表する推理小説家・横溝正史（1902～1981）は、1902（明治 35）年 5 月 25 日に東川崎町 3 丁目で生まれ、1926（大正 15）年に上京するまでこの東川崎町で暮らしていた。東川崎小学校（現・湊小学校）から神戸二中（現・県立兵庫高校)、大阪薬学専門学校（現・大阪薬科大学）へとすすみ、卒業後は東川崎 7 丁目にあった家業の薬局を継いでいた。

江戸川乱歩の招きに応じて上京した横溝は、「新青年」「探偵小説」といった雑誌の編集長をつとめた。戦後の 1946（昭和 21）年に創刊された「宝石」創刊号から「本陣殺人事件」を連載し、この推理小説で彼の分身とも言える名探偵・金田一耕助を世に送り出したのであった。以後、「獄門島」「犬神家の一族」「八つ墓村」など数多くの金田一シリーズを執筆していった。とりわけ、昭和 40 年代後半から 50 年代前半にかけ、一連の横溝作品が文庫化され、また、「犬神家の一族」が映画化されたのをかわきりに、文庫本、映画、テレビと三つの媒体を通して世に横溝正史ブームが巻き起こった。

横溝は神戸に対する愛着が深かったようで、彼の作品の中にはしばしば神戸が登場することがその例証と言えよう。なかでも、「悪魔が来たりて笛を吹く」では重要人物の別荘が神戸の須磨に設定されていることから、金田一耕助が神戸に来て活動する場面が描かれている。

生誕 100 年が過ぎ、横溝正史先生生誕地碑建設委員会が 2004（平成 16）年 11 月 23 日、生誕地付近に陳舜臣氏筆による「横溝正史生誕の地」の碑を建設した。

場所：神戸市中央区東川崎町４丁目

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著